

伊賀国府(伊賀国庁)(伊賀市大字坂之下字国庁)

木津川の支流、柘植(つげ)川右岸の段丘上に位置する古代伊賀国府の国庁跡。国府の所在地については、柘植川対岸の沖積地が推定されていたが、三重県埋蔵文化財センターと上野市教育委員会による発掘調査で判明した。

遺構についてはⅠ期からⅣ期の変遷があり、東西約41m、南北も同程度の掘立柱塀で区画された政庁域の中に、正殿・前殿・脇殿等が配される。主要建物は当初は掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)であるが、Ⅲ期にあたる10世紀前半から後半にかけて礎石立(木津川の支流、柘植(つげ)川右岸の段丘上に位置する古代伊賀国府の国庁跡。国府の所在地については、柘植川対岸の沖積地が推定されていたが、三重県埋蔵文化財センターと上野市教育委員会による発掘調査で判明した。

遺構についてはⅠ期からⅣ期の変遷があり、東西約41m、南北も同程度の掘立柱塀で区画された政庁域の中に、正殿・前殿・脇殿等が配される。主要建物は当初は掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)であるが、Ⅲ期にあたる10世紀前半から後半にかけて礎石立(そせきだて)建物に建て替えられる。出土した墨書土器(ぼくしょどき)の中に「国厨」と書かれたものがあり、遺跡の所在地に「こくっちょ(国町)」と称する地名が残ることから、検出された建物群は伊賀国府の中枢部分である伊賀国庁を構成するものと考えられる。

このように、伊賀国庁は主要な施設の配置関係がほぼ判明し、遺構の残存状況も良好である。存続時期は8世紀末から11世紀中頃であり、下国(げこく)「伊賀国」の国府中枢である国庁の造営と変遷の実態を良く示すとともに、古代伊賀の政治情勢を示す上でも貴重である。そせきだて)建物に建て替えられる。出土した墨書土器(ぼくしょどき)の中に「国厨」と書かれたものがあり、遺跡の所在地に「こくっちょ(国町)」と称する地名が残ることから、検出された建物群は伊賀国府の中枢部分である伊賀国庁を構成するものと考えられる。

このように、伊賀国庁は主要な施設の配置関係がほぼ判明し、遺構の残存状況も良好である。存続時期は8世紀末から11世紀中頃であり、下国(げこく)「伊賀国」の国府中枢である国庁の造営と変遷の実態を良く示すとともに、古代伊賀の政治情勢を示す上でも貴重である。

(文化遺産オンラインによる)

伊賀国庁跡(いがこくちょうあと)は、三重県伊賀市大字坂之下字国庁(国町)に所在する、律令制下の地方行政機関の施設跡である。律令体下での下国の国庁の造営と変遷の実態がよくわかる遺構として、2009年(平成21年)7月23日に国の史跡に指定された。

発見前

長らく伊賀国庁の所在地は不明とされていたが、東西4キロメートル・南北3キロメートルの範囲をもつ「府中」という地名が存在することから、この範囲内に国庁があったことは知られていた。印代村は条里制遺構がよく残る万町の沖の一部で、条路と里路が交わる条里制遺構サシガネ(大工の使う曲尺の意味)を朱雀大路に見立て、国庁跡と推測されていた。また、大字西条に残る「国府湊」の地名を、藤堂元甫が著した『三国地誌』にある「国府湊、国府」という記述に比定し、裏付けとされていた。1988年(昭和63年)に印代で発掘調査が行われたが、奈良・平安時代の遺構はほとんど発見されずに終わった。この直後の大字坂之下での圃場整備の際に国庁跡が発見されることになる。

発見 発掘

1988年(昭和63年)、圃場整備の際に掘立柱建物の遺構が発見され、「國厨(くにのくりや)」と書かれた墨書土器が出土したことから伊賀国庁跡と断定された。「國厨(くにのくりや)」と書かれた墨書土器は稲荷前A遺跡(推定相模国府跡)、周防国衙跡や薩摩国府跡でも発見されている。また、遺構の位置

する小字が「国庁さん（こくつちょさん）」と呼ばれていることや、一帯が「府中」と呼ばれていること、明治時代の史料に柘植川北岸に伊賀国庁跡があるという旨の記述があることも根拠となった。遺構は3つの小川が合流する地点に隣接しているが、これは水利に適した場所を独占する意図があったと考えられている。南には、交通の要衝である東海道が通っていたとされる。

政庁跡と推測される遺構を囲む柱列は1辺40メートルの方形で、沿って溝が巡らされていた。国庁の範囲は、水田の高低差から東西200メートル・南北150メートルと推測されている。おおよそ飛鳥時代から存在していたとされるが、10世紀後半の土器が完形のまま残され、炭と共に出土したことから、この時期に廃絶されたものと考えられている。

現在

JR 関西本線佐那具駅から徒歩約5分の場所に所在する。現在は大部分が水田に埋め戻されている^[1]。周辺には古墳時代から平安時代までの遺構が散見され、古くから栄えた地域であることが確認できる（外山 鷲棚古墳群、楽音寺跡（別名 国分寺）、外山大坪遺跡、御墓山古墳、勘定塚古墳、敢国神社、小宮神社、波多岐神社）。また、2015年から遺構を保存整備することが計画されている¹。

Wikipedia による

